

病理について：

こんにちは、沖縄病院で病理医をしています、熱海と言います、皆さんは病理医という仕事をご存知でしょうか？ご存知でない方も多いかと思いますので、今日はそのお話をしたいと思います。

皆さんが病院などで胃カメラや大腸カメラを受けると、主治医の先生から、「組織をとりましょう」と言われることがあるかもしれません。あるいは手術や子宮のがん検診などを受けるときもありますね。このようにして採取された生検組織や手術標本、細胞は私たち病理医が顕微鏡で見て、良性か悪性か、腫瘍か腫瘍でないか、腫瘍とすれば何の腫瘍か、手術標本であれば、きちんと取りきれているか、など診断をつけています。これを主治医の先生に報告することにより、追加で治療が必要かどうか、このさきも経過を見たほうが良いかどうか、など治療方針が決められていきます。また、何の病変かわからず、手術になった場合や、手術中に腫瘍がきちんと取りきれているかどうかの問題となる場合など、術中迅速診断と言って、手術中に標本を作成し、10-15分くらいでみて診断をつけて手術中の主治医の先生に報告することもあります。その他の病理医の仕事としては、お亡くなりになられた方の病理解剖を行う場合もあります。不幸にしてお亡くなりになられた方の病名がはっきりしない場合、主な病気ははっきりしているものの、細かい部分がわからない場合、病気自体が非常に珍しく、治療法が確立されていない場合など、次の医療に生かすため、病理解剖をご遺族の方にお問い合わせする場合があります。この時に病理医は実際に解剖を行い、最終的に各臓器を顕微鏡で観察し、担当の先生に報告します。

患者さんとお会いすることはほとんどないため、あまり知られていない存在ですが、このように、病気の診断、治療の面で病理医は大切な役割を担っており、非常にやりがいのある仕事です。